

道徳だより

令和2年12月

～夢と笑顔と「ありがとう」があふれる上里東小学校～

寒冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のことと拝察いたします。今学期もあと数日となりました。2学期は、コロナ禍の中でしたが、いろいろな行事を行うことができました。例年通りとはいきませんでした。子供たちにとって楽しい思い出ができたのではないのでしょうか。

さて、道徳だより12月号では、1年生の授業の感想をまとめましたので、御家族でお話のあらすじと同じ場面を思い浮かべながら、読んでいただければと思います。

<1年生の授業より>

「学校のかえりみち」～しんせつにすること～「親切、思いやり」

★困っている人を助けることは、相手にとってはもちろんありがたいことであるが、その喜びを感じる自分にも大きな喜びであることに気づき、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てる。

●お話の内容●

学校の帰り道、ゆうじとまことは、スーパーの前で、シニアカーを動かせなくなっているおじいさんを見かけます。自転車が道にはみだしてとめてあるので、前へ進むことができなかったのです。まこととゆうじは、「しらないおじさん」だということで、通り過ぎようとしています。しかし、そのとき通りかかったおばさんが、自転車を片付け始めたのを見て、2人も一緒に片付け始めます。おじいさんはとてもうれしそうでしたが、自分たちもおじいさんに「ありがとう。」と言われてうれしくなり、みんながここにこしていたのです。

教師：「おじいさんだけでなく、おばさんもゆうじもまこともうれしそうなのはどうしてでしょう。」

児童：「おじいさんがよろこんでくれたから。」
「とおりすぎないで、てつだえたから。」
「ゆうきをだせたから。」
「しんせつにするとじぶんもうれしいから。」
「おばさんも2人がてつだってくれてうれしかったから。」



教師：「きょうのがくしゅうで、しんせつについて、どんなことをかんがえましたか。」

児童：「しんせつは、される人もうれしいけれど、するほうもうれしくなる。」
「しんせつにすると、みんながえがおになる。」
「これから、しんせつにしていきたいな。」



普段の生活の中でも、親切にされた経験があり、「そのときは、うれしかった。」という思いを持っています。自分が親切にした経験は、されたことよりも少なかったのですが、今回の学習を通して、親切にされた相手が喜ぶだけでなく、親切にした自分も大きな喜びになるということを学び、身近な人に親切にしていきたいと意欲を持つことができました。